

# 『京の匠』 企業情報

業種 繊維製造・卸売  
 フリガナ カブシキカイシャ モトヒロ  
 企業名 株式会社 元廣

企業番号 24

代表者	代表取締役 元廣 哲也	担当者	羊毛部課長 元廣 祐大
資本金(百万円)	24百万円(2015年時点)	社員数	220名
所在地	〒612-8473 京都市伏見区下鳥羽広長町162番地		
創業	大正10年(1921年)	設立	昭和26年(1951年)
TEL番号	(075)611-2195	FAX番号	(075)612-0976
URL	<a href="https://www.motohiro.co.jp/">https://www.motohiro.co.jp/</a>		
訪問日	2024/12/5	訪問者	奥林先生、岡久先生、名所SF、早水
事業内容	<p>・1921年、絹紡糸用のシルクの原料商として京都で創業、戦後は素材をシルクからウールに転換、グローバルな繊維原料の専門商社。                  ・繊維事業はウールを中心とした天然素材の専門商社。オーストラリア、中国との取引も多く上海、シドニーに合弁企業の工場設立。                  シルクから主力原料のウールを中心に、カシミアやアンゴラなどの高級獣毛素材、麻やアルパカなどの希少素材まで幅広く取り扱う。                  ・ケミカル事業…ウールグリース、ケミカル原料や有機肥料の販売。                  グリースはラノリン、コレステロールへと加工されて化粧品等となる。                  ・ホビークラフト事業…「スキー毛糸」ブランドを中心とした手編み毛糸および手芸キット品など商材の販売                  ・外食事業…びっくりドンキー、丸源ラーメンのフランチャイズ店やかつ井元・玄のオリジナル店を関西中心に展開。</p>		
技術内容 (1)	<p>★繊維部                  ・繊維原料課:紡績、中綿、不織布、フェルト向けに衣料用から産業資材用まで販売羊毛原料を中心に獣毛原料からシルク、ラミーに至るまで幅広く原料を保有し、顧客のニーズや加工機械に合わせた原料加工を本社倉庫にて行う。                  ・化炭原料課:中国江陰市の合弁工場、豊源炭化工場で加工したノイルおよび豪州羊毛を広く世界(主に中国)に販売する部門                  ・OEM原系課:顧客の不得手な部分を補う糸販売部門。すべてオーダー生産が基本、近年アパレルから、原毛からのしっかりしたトレーサビリティやサステナビリティな製品の作りを依頼されるケースが増えているので羊毛部と連携して提案している。                  ★羊毛部                  ・梳毛原料課:豪州で買い付けた原毛を中国の合弁工場へウールトップに加工して、それを梳毛原料として梳毛紡績を中心に販売。                  ・インデント原料課:豪州でのウールの90%以上はオークションで販売されている。日本では弊社のみがこの羊毛買い付けの為にシドニー支店を持ち、日本人が買い付け(インデントオーダー)できる。</p>		
技術内容 (2)	<p>★エコロジー&amp;リサイクル                  ・毛布やコートなどの紡毛原料は梳毛工程で発生する紡績屑やトップ工程で発生する加工屑のリサイクルから始め、紡績屑は色を生かして選別したり反毛して、原料に戻し「糸」として生まれ変わる。                  ・トップ加工屑はノイルと呼ばれて化炭工程を経て「フェルト原料」へと生まれ変わる。                  ・羊毛の動物福祉などの環境要件に加え工程管理の要件を満たすことの基準であるRWS*1規格を取得して、企業間取引における売り手を通じ、農場認証及びサプライチェーン認証を構成している。                  ・紡毛用原料は豪州羊毛の化炭原料のみならず、梳毛工程で発生するアップサイクル屑加工販売や紡績工程で発生する副産物のリサイクル利用など、自然にやさしいエコ素材としても提案している。                  ・サステナブルな循環型社会の実現を目指した高島屋のプロジェクトDepart de Loop(デパート デループ)*2の繊維原料(カシミア等)に再資源化して新しい服やモノに生まれ変わらせる企業連携に参画。                  ・昨年、愛知県一宮の栄光染色(株)*3をグループ傘下に納め、トップ、ワタ等の前処理から染色加工まで国内の生産システムを構築。</p>		
繊維科学Cと連携や利用法(感想など、)	<p>・ウールは捨てる場所はほとんどなく、肥料であったりラノリンを取るなどして土砂や油まで再利用できる究極のエコロジー素材であるとの観点から、今後のサステナブル社会の貢献にアピールしていく意気込みを感じる。                  ・来期センターの繊維サーキュラープロジェクト(G2G)の積極的な事業推進に向けて、京都市内において様々な繊維リサイクル技術への知見やネットワーク企業などの協力・連携が期待できる。</p>		



: 写真、文章の複製及び開示厳禁(2024~)

参考 ※1:RWSとは

Responsible Wool Standard(レスポンシブル ウール スタンダード)の略で、羊と土地の管理を実践した農場で生産された羊毛原料がその後の最終製品に至るまですべての製造工程において、正しく、間違いなく使われ、管理されているかのトレーサビリティを証明する国際的な認証基準。  
 動物の人道的な扱い、土地の健康、健全なサプライチェーンの構築など認証のための4つの柱があり、全ての製造工程において審査を受け、認証を取得することにより、RWSウールと認定される。

※2:「Depart de Loop (デパート デループ)」

<https://www.takashimaya.co.jp/store/special/depart-de-loop/reclamation.html>

※3:栄光染色(株)

<http://www.eiko-dye.com/>